

さんのうやま

## 山王山遺跡(現岸根高校敷地)について

### ○ 遺跡について

さんのうやま

あざさんのうやま

山王山遺跡は、横浜市港北区岸根町字山王山にあった遺跡です。ここに県立岸根高校を建設することになり、工事をする前に地下に埋まっている埋蔵文化財を調査するために1981年7月から83年2月までの延べ19ヶ月間、約2万㎡の面積を発掘しました。

まいぞう

調査前の地形は丘陵のあちこちに谷が入り組んでいる状況で、斜面はほとんどが急でした。急斜面は雑木林となっていて、尾根の上や谷底の平坦地は畑や荒地でした。

さんのうやま

いこう

山王山遺跡から見つかった遺構・遺物は、縄文・弥生・古墳・平安・中世(鎌倉・室町)の各時代のものがありました。

しかし、各時代すべてにわたって、人が暮らしていたのではなく、一番生活の場所として利用された時代は、縄文時代早期後半～前期にかけてと、弥生時代後期～古墳時代前期にかけてでした。



調査前の遺跡(現岸根高校敷地)



樹木を伐採した後(手前の校舎は篠原西小学校)

## ○ 縄文時代

縄文時代の遺物は、ほぼ遺跡全体から出土していて、早期前半から後期にかけて断続的に各時代の遺物が出土しています。

なかでも主体となるのが早期後半から前期初めにかけて作られた土器で、表面に貝殻の背中で引っ掻いた文様がつけられています。

また、遺構としては、早期後半の<sup>たてあな</sup>竪穴状遺構が一基、中期中頃の<sup>たてあな</sup>竪穴住居址が一軒、早期後半から前期初めにかけての<sup>ろあな</sup>炉穴が47基、早期から中期にかけての<sup>どころ</sup>土壇が45基、前期から中期にかけての集石が4基見つかっています。

<sup>ろあな</sup>炉穴は、食べ物を料理するために火を焚いた所と考えられています。一部の<sup>ろあな</sup>炉穴からは完全な形をした土器が見つかっていますが、その他の<sup>ろあな</sup>炉穴からは土器や石の破片、焼けた石、炭になった種子などが出土しています。

早期後半以外の時期は、比較的遺構も少なく、この遺跡は長期間にわたって居住する場ではなく、狩猟の際のキャンプ地のような場所であったと考えられます。



尾根頂上の炉穴や土壇群



山王山遺跡全景



縄文土器の出土状況

## ○ 弥生時代中期～古墳時代前期

この時代の遺構・遺物は最も数が多く、山王山遺跡さんのうやまに多数の人々が住んでいた時代です。遺構は尾根の上や谷底の平坦地や緩やかな斜面から見つかり、谷に臨んだ場所に多く見られます。中世や近代になって切りくずされた所があったはずなので、遺構はもっと多かったと思われます。調査された主な遺構は堅穴住居址 88 軒、方形周溝墓 5 基、土壙 6 基、土器捨て場 3 ヶ所、遺物包含層 3 ヶ所、井戸状遺構 1 基などです。

堅穴住居址たてあなは 5 m × 4 m ほどの四隅の丸い長方形をした家で、地面に掘り込まれています。正方形の配置された大きめの穴が柱を立てるために掘られた穴です。写真の奥の 2 本の柱の間に火を燃やした炉があります。手前中央の穴は梯子はしごを立てるための穴で、その右側のやや大きめの穴は物を貯蔵するための穴です。

山王山遺跡さんのうやまではこれらの施設がそろって見つかった堅穴住居址はあまりありません。他の遺跡に比べると小さめの住居址が多いことと、斜面に作られた住居址が多いためと思われます。堅穴住居址の床からは人々が使用した土器や石斧などがまとまって出てくることがあり、人々がどのような道具を用いていたかが分かります。



豎穴住居址



尾根上の豎穴住居群



豎穴住居址からの遺物出土状況

方形周溝墓しゅうこうぼは一辺10m程の長さの溝が四角く取り囲んだ墓で、中央に人を葬った穴があります。中からは土器が出てくることがあります。山王山遺跡さんのうやまでは5基見つかっていますが、いずれも畑などで削られていて完全なものはありませんでした。また、方形周溝墓しゅうこうぼはたてあな堅穴住居址よりも高い尾根の上から見つかっています。

土壙どこうは6基見つけられました。深いものは2m以上の深さがありますが、何に使われたのか分かりません。

土器捨て場は使っていた土器を一度に捨てた場所です。遺物包含層ほうがんは土器などが土の中から多く出てくるのに遺構のない所です。

井戸状遺構いこうは飲み水などをためた所で、谷底から見つかっています。人々が使った道具には、土器・石器・金属器があります。

弥生時代中期では、米などを貯蔵するための壺、煮炊きに使った甕かめ、木材を加工するために使った磨製石斧ませいせきおの、銅の指輪などが出土しました。弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器は、物を供える高坏たかつきや物を盛るための鉢なども使われました。また、壺は首が短くなったり、甕かめでは炉で使いやすいように台が付いたりして形が変わ

りました。

この時代には鉄が広く使われるようになり、石の道具は使われなくなります。さらに、他の地方で作られた土器が持ち込まれるようになります。その形や作った技術から東海地方などで作られた物が見つかり、東海地方と交流があったことが分かります。



方形周溝墓壺の出土状況



## ○ 古墳時代後期

この時代の遺構・遺物はすべて谷の斜面か谷底から見つかっています。遺構は竪穴住居址が4軒と溝が一本で、遺物包含層が2ヶ所あります。前の時代に比べると遺構のある場所が大きく変わり、遺構の数も減っています。

竪穴住居址は一辺3m程の方形で、北東か北西の壁にかまどが粘土で作られていて、煮炊きや暖房に使われていました。柱穴は見つかっていません。かまどは崩れていますが、使われていた甕がかまどの中から完全な形で出土しています。

土器は、土師器と、朝鮮半島から伝わってきた技法で作られる須恵器とがありますが、ほとんど土師器です。須恵器は東海地方から持ち込まれたものです。土師器の甕はかまどで使うために細長くなっています。また、皿のような形をしたのが坏で、食物を盛るのに使われました。土器以外では、砥石があり、鉄の道具が使われていたことが分かります。7世紀前半から中頃にかけて谷奥に数軒の家からなる集落がありました。

## ○ 平安時代

この時代の遺構<sup>いこう</sup>は火葬墓1基です。調査範囲の南はしの尾根上から見つかりました。穴を掘った中に甕<sup>かめ</sup>を逆さにして置いてあり、その中には火葬されたて細片になった骨片が見られました。平安時代には仏教の影響がこの地の人にもおよんで火葬が行われていたことが分かります。



谷底の住居址群



火葬墓



土師器の出土

## ○ 中世

さんのうやま  
山王山遺跡からは、鎌倉時代から室町時代にかけて造られた土塁どるいや溝、また、その頃使われた陶磁器なども出土しています。土塁とは、尾根の頂上部分を台形に削って、その上に土盛りをしたもので、その東側に沿って堀が掘られています。これは調査区域外にも続いていて、推定で250m～300m程の長さに造られていたと考えられます。

溝は15ヶ所も検出されていますが、その中には底には柱を立てて並べたものや、部分的に深く掘り込んだあとすぐに埋め戻して水を吸い込ませるようにした土壇どこうを持つものもあります。建物など住まいに関する施設は認められませんでした。

出土物としては、中国製の青磁碗せいじや、国産で渥美窯や常滑窯とこなめ、瀬戸窯などの碗・壺・甕かめ・こね鉢・仏華瓶などの他に、羽釜やかわらけなどの破片も出土しています。

『横浜市港北区山王山遺跡調査の概要』（神奈川県立埋蔵文化財センター）1985.7 より

